

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

注目～よく観る～／福島市立庭塚幼稚園

植物を育てる過程で、子どもたちの、様々な気づきや発見をどのように受け止めていますか？

子どもたちの気づきや発見を友達も保育者も共有することで、子どもたちは、植物への興味を深めていきます。

蔓に注目したことで、植物をよりよく観るようになった子どもたち。生長に気付いたり、他の植物と比べたりしている姿から「科学する心」が育まれていることが見えてきます。



○ 「ぐるぐるひげがはえてるよ」／5歳児

5歳児が、保育室のテラスにある花壇に、「ゴーヤ」「アサガオ」「おもしろかぼちゃ」プランターに「サツマイモ」「ミニトマト」「ピーマン」「ニンジン」「モロッコマメ」を植えた。

4歳児の時も花や野菜の栽培を体験していたが、自分から進んで世話をしたり、興味をもって観察したりする姿に、変容を感じた。昨年の体験から、自分たちの花や野菜であるという意識が強くなり、「いつ食べられるのかな？」「あれ！こんなのがあったよ！」などと、興味や関心も高まっている。

日々水やりをする中で、野菜の生長や変化に気づき、保育者や友達に発見したことや不思議に思ったことなどを知らせたり、感動を共有したりしている。

「伸びてきたよ」「あっ！花が咲いたよ」と野菜が生長するにつれて、子どもから気づきの言葉が次々と聞かれるようになった。



✦ 6月下旬

- Aちゃんが「先生、ぐるぐるのひげが生えてる」と巻きひげの発見を知らせに来た。
- 保育者は「ぐるぐるひげ？」と不思議に思った。話を聞いていた友達もプランターまで一緒に行くと、確かにゴーヤの蔓にぐるぐるのひげのようなものが付いていた。
- 「ぐるぐるだ」「こっちにもぐるぐるだ」と「ぐるぐるのひげ」を見付けることを楽しむ姿が見られた。「ぐるぐるひげって面白いね」「でも一体何なんだろう？」と巻きひげの不思議さを感じている様子だった。
- Bちゃんが「先生、こっちにもぐるぐるひげがあるよ」と、今度は、おもしろカボチャの方にも「ぐるぐるひげ」があることを知らせにきた。
- 保育者は「また見付けたの？」と驚きながら、他の幼児にも「ぐるぐるひげ」があることを知らせ一緒に見に行くことにした。
- Cちゃん「本当だ、ぐるぐるひげがいっぱいあるね」Dちゃん「サンジみたい」と見た目の面白さに、興味をもって見つめる姿が見られた。
- 保育者は「ゴーヤとおもしろカボチャには、ぐるぐるひげがあるんだね。面白いね」と幼児の気持ちに共感しながらみんなで確認し合った。



- Aちゃんが「じゃあアサガオはどうだろう？」と蔓の張っていくアサガオを見に行くことにした。
- 「ぐるぐるひげあるかな？」他の幼児も一緒に探してみることにした。「ぐるぐるひげ、ぐるぐるひげ…ないね」と、アサガオには「ぐるぐるひげ」がないことに気が付いた。
- Bちゃんは、「サツマイモはどうか？」と言い、サツマイモに「ぐるぐるひげ」があるか探してみることにした。
- 探しても探しても「ぐるぐるひげ」はなかった。がっかりした様子も見られたが、日々よく観てきたことで「ぐるぐるひげ」があるものもないものが、分かってきた。

✿ 7月下旬

- 日々、生長していく野菜や花を見ながら、「どんどん上に伸びているね」「先生よりも伸びてきたんじゃない」「もうジャンプしても届かないね」と蔓が生長してきていることに気づき、喜ぶ姿が見られた。
花が咲いてきたこと、小さな実がなってきたこと、ゴーヤの青臭い匂いがすることなどにも興味をもち観察する姿が見られるようになってきた。
- Aちゃん「先生、ぐるぐるひげが、こっちにもくっ付いているよ」
- 保育者が「なにになに？」と見に行くと、「ぐるぐるひげ」がグリーンカーテンの網に巻き付いていた。
- 保育者「本当だ。よく見付けたね」「他のはどうなってるか見てみようか」と投げかけた。
- 「あ！おもしろかぼちゃのぐるぐるひげも、くっ付いているよ」とおもしろかぼちゃも同じようになっていることに気が付く。
- 保育者「ぐるぐるひげが網にくっ付きながら、だんだん上に伸びていくんだね。ぐるぐるひげが助けてくれるのかな？上に行っても落ちないようにってね」と子どもたちと発見を共感する。
- 観察を続けていくと、Aちゃんが「アサガオはぐるぐるひげがないけど、これがぐるぐるしているね」とアサガオの苗自体が網にぐるぐると巻き付いていることに気が付く。みんなで「ゴーヤとおもしろかぼちゃは、上に伸びていく時にぐるぐるひげを出して、伸びていく」「アサガオは自分で上に登っていく」と気付いたことや分かったことを話し合った。
- その後、よく観察を続けていく中で、サツマイモの苗は育つが上にも伸びて行かないし、ぐるぐるひげも出さないということに気が付く子どもたちの姿があった。



✿ 考察

環境構成

- 保育室前のベランダを利用し、子どもがいつでも見たり世話をしたりできる場所に置いたことは、子どもが毎日水やりをしたり、観察の意欲を継続したりする良い環境であると分かった。
- 色水遊びや野菜の栽培、緑のカーテンなどいろいろな目的やねらいをもって始めた栽培活動だったが、子どもの観察力には驚かされた。いつもは、見過ごしてしまいそうな植物の蔓をよく観察しているということが分かった。たくさんの蔓が伸びる植物を植えたことで、子どもの気づきや疑問などを考える場となった。
- いろいろな種類の花や野菜を栽培することでそれぞれの特徴や役目などの違いを知ることができた。また、気付いたことを友達や保育者に知らせ一緒に感動を共有する場となった。

保育者の援助

- 5歳児は、昨年から継続して、栽培活動をしてきた。その中で、花が咲き実になるという過程を実体験した。昨年の経験から、「こうなるであろう」「これはどうかな」などいろいろな考えたり予想したりしながら、観察を楽しみ、世話をすることができた。昨年は、ゴーヤやカボチャの「巻きひげ」の存在には気付かなかったが、よりよく観ることを通して発見することができた。昨年の体験があるからこそ気づき・発見が違ってくるとということと共に、保育者が、受け止めたり、共感したりすることの大切さを実感した。

